日記法による全般的・領域特定の自尊感情の変動性とレベル

日常の感情状態との関連性に注目して

○箕浦有希久¹・成田健一²

(¹関西学院大学大学院文学研究科・²関西学院大学文学部)

キーワード：日記調査, 自尊感情の不安定性, 状態自尊感情

Instability and level of global and domain-specific self-esteem in diary survey

Yukihisa MINOURA¹, and Ken'ichi NARITA²

(¹Graduate School of Humanities Kwansei Gakuin Univ., ²Department of Humanities Kwansei Gakuin Univ.)

Key Words: diary survey, instability of self-esteem, state self-esteem

目 的

自尊感情の多次元性について大きく2つの視点がある。自己全体への包括的な評価・感情である全般的 (global) 自尊感情と、自己の多様な領域への個別の評価・感情である領域特定の (domain-specific) 自尊感情である。多次元性の視点それぞれによって“自尊感情が変化すること”のもつ意味が異なるのではないだろうか。

自尊感情の変動性 (instability of self-esteem) とは、短期的な自尊感情の変化しやすさを意味し、数日間で複数回測定された自尊感情得点の個人内標準偏差を指標とする。自尊感情のレベルは、個人の自尊感情のベースラインの高さを意味し、数日間で複数回測定された自尊感情得点の個人内平均を指標とする (Kernis et al., 1989)。

全般的自尊感情の変動性は、自己概念全体への評価・感情が変化しやすいことを意味し、自我の脆弱さ・過敏さと関連して幅広い不適応の特徴を反映するだろう。一方、領域特定の自尊感情の変動性は、自己の多様な領域への評価・感情が変化しやすいことを意味し、日々の経験によって各領域の自尊感情が精緻にアップデートされるような適応的機能を反映していると考えられる。

本研究は日記法質問紙調査を用いて、全般的・領域特定の自尊感情の変動性・レベルと感情状態の関連性を検討した。

方 法

2013年11月・2014年1月、大学生216名が7日間毎晩同一の質問に回答する日記調査に参加した。102名から調査票を回収し、無効回答を除く87名 (女60, 男24, 不明3), 平均年齢20.11歳 (SD = 0.86, 範囲: 18-22) を分析対象とした。

調査内容 (a) 全般的自尊感情: 状態自尊感情尺度 (阿部・今野, 2007) 9項目 (b) 領域特定の自尊感情: State Self-Esteem Scale (Heatherton & Polivy, 1991) の邦訳版 (館・宇野, 2000) 20項目。performance, social, appearanceの3因子からなる (c) 多面的感情状態尺度 (寺崎他, 1992) の下位尺度“抑鬱・不安”“敵意”から2項目ずつ選出した。同時に他の心理変数の調査もおこなっていた。

(a)(b)は7日間の個人内平均値を算出して“レベル”の、個人内標準偏差を算出して“変動性”の指標とした。(c)についても7日間の個人内平均値を算出して分析変数とした。

結 果

全般的・領域特定の自尊感情のレベル間 ($r = .76, p < .001$), 変動性間 ($r = .52, p < .001$) に高い正の相関がみられた。先行研究と同様に、レベルと変動性の相関関係は全般的・領域特定の自尊感情ともに無相関であった ($r = -.19, r = .03, n.s.$)。Table 1・2に単相関・偏相関分析の結果を示した。

自尊感情の変動性 7日間の抑鬱・不安得点と全般的自尊感情の変動性のみ有意な正の偏相関 ($r = .32, p < .01$) がみられ、領域特定の自尊感情の変動性は無相関であった。自尊感情の変動性の中でも全般的自尊感情こそが、抑鬱・不安とい

Table 1

自尊感情の変動性と他の変数の相関分析

	単相関		互いを制御変数とする偏相関	
	全般的自尊感情	領域特定の自尊感情	全般的自尊感情	領域特定の自尊感情
7日間の抑鬱・不安	.28 **	.02	.32 **	-.15
7日間の敵意	.12	.12	.07	.07

(* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$)

Table 2

自尊感情のレベルと他の変数の相関分析

	単相関		互いを制御変数とする偏相関	
	全般的自尊感情	領域特定の自尊感情	全般的自尊感情	領域特定の自尊感情
7日間の抑鬱・不安	-.34 **	-.44 ***	-.02	-.29 **
7日間の敵意	-.21 *	-.25 *	-.03	-.14

(* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$)

った不適応の特徴を反映している。

自尊感情のレベル 7日間の抑鬱・不安得点と全般的自尊感情のレベルは無相関であった。領域特定の自尊感情のレベルのみ有意な負の偏相関 ($r = -.29, p < .01$) がみられたため、さらに下位尺度ごとに偏相関分析をしたところ、他者からの評価を気にかけない程度を意味する social 因子のみ、抑鬱・不安 ($r = -.31, p < .01$) と有意な負の偏相関がみられた。つまり他者からの評価懸念が小さい人ほど抑鬱・不安といった不適応の特徴をもたないと言える。

考 察

本研究は自尊感情の多次元性の2つの視点から、全般的・領域特定の自尊感情それぞれの変動性・レベルと日常の感情状態の関連性を検討した。

抑鬱・不安といった不適応の特徴と関係するのは全般的自尊感情の変動性であり、領域特定の自尊感情の変動性は無関係であることがわかった。また自尊感情のレベルについて、領域特定の自尊感情のレベルの中でも特に他者からの評価懸念に関する一側面が、全般的自尊感情のレベルを制御変数としてもなお独自に抑鬱・不安と関連することがわかった。

全般的・領域特定の自尊感情は高い正の相関があり、互換可能な変数とみなされることがある。しかし本研究ではそれぞれが独自に予測する内容があり、自尊感情の変動性に関する研究目的に応じて“自尊感情の多次元性”の視点を考慮する必要性が示唆された。今後は、領域特定の自尊感情の変動性の適応的な側面についてより詳細に明らかにするため、毎日の出来事や感情経験との対応関係を検討する必要がある。

引 用 文 献

Kernis, M. H., Grannemann, B. D. & Barclay, L. C. (1989). Stability and level of self-esteem as predictors of anger arousal and hostility. *JSPSP*, 56, 1013-1023.